

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2000-159254
(P2000-159254A)

(43) 公開日 平成12年6月13日 (2000. 6. 13)

(51) Int.Cl.⁷
B 6 5 D 47/14
55/16

識別記号

F I
B 6 5 D 47/14
55/16

テーマコード (参考)
F 3 E 0 8 4

審査請求 未請求 請求項の数6 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平10-338673

(22) 出願日 平成10年11月30日 (1998. 11. 30)

(71) 出願人 000108731

タケヤ化学工業株式会社

大阪府羽曳野市東阪田75番地

(72) 発明者 木野 幸夫

大阪府羽曳野市東阪田75番地 タケヤ化学
工業株式会社内

(74) 代理人 100080746

弁理士 中谷 武嗣

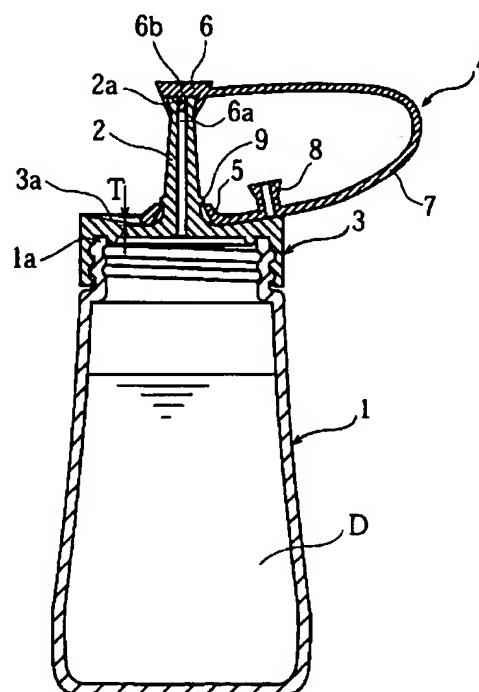
Fターム (参考) 3E084 AA02 AA12 AA24 AB01 BA03
CA01 CB02 CB10 DA01 DB12
EA02 FA09 FB01 GA04 GA08
GB04 GB12 JA16 KB01 LA17
LB02 LB07 LC01 LD01

(54) 【発明の名称】 調味料用容器

(57) 【要約】

【課題】 吐出防止具を取外すことが可能な調味料用容器を提供する。

【解決手段】 上方開口部1 aを有する容器本体1と、吐出小管部2が上面3 aから突設されると共に容器本体1の上方開口部1 aに施蓋される蓋体3と、蓋体3に着脱自在に取付けられる吐出防止具4と、を備える。吐出防止具4は、蓋体3の吐出小管部2の根元に着脱自在に外嵌される環状取付部5と、吐出小管部2の先端部2 aに着脱可能に外嵌される小キャップ部6と、環状取付部5と小キャップ部6とを連繋する可撓部7と、可撓部7の中間部上面に突設されて小キャップ部6が外嵌可能な凸部8と、を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 上方開口部1aを有する容器本体1と、吐出小管部2が上面3aから突設されると共に上記容器本体1の上方開口部1aに施蓋される蓋体3と、該蓋体3に着脱自在に取付けられる吐出防止具4と、を備え、該吐出防止具4は、上記蓋体3の上記吐出小管部2の根元に着脱自在に外嵌される環状取付部5と、上記吐出小管部2の先端部2aに着脱可能に外嵌される小キャップ部6と、上記環状取付部5と該小キャップ部6とを連繋する可撓部7と、該可撓部7の中間部上面に突設されて上記小キャップ部6が外嵌可能な凸部8と、を有することを特徴とする調味料用容器。

【請求項2】 吐出小管部2がその基端から吐出防止具4の環状取付部5の厚さTと略等しい高さにリング状の抜け防止凸条部9を有する請求項1記載の調味料用容器。

【請求項3】 吐出防止具4の凸部8が平面視に於て蓋体3の上面3a外縁より内側に位置する請求項1又は2記載の調味料用容器。

【請求項4】 蓋体3の上面3aが凹面状を形成している請求項1、2又は3記載の調味料用容器。

【請求項5】 吐出小管部2が先端部2aに向かって縮径状であって、吐出小管部2の根元に環状取付部5を外嵌したときに可撓部7が蓋体3の上面3aに接するように、吐出防止具4が構成された請求項1、2、3又は4記載の調味料用容器。

【請求項6】 上方開口状の容器本体10と、上面12aに吐出パイプ11が一体状に設けられて上記容器本体10の上部に着脱自在に施蓋される蓋体12と、から成り、該蓋体12の上面12aが凹面状に形成されていることを特徴とする調味料用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、調味料用容器に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、調味料用容器としては、図7に示すように、注ぎ用突出孔20と、係止用突起部21と、を有する大キャップ22と；大キャップ22が上端部に螺合される上方開口状の容器本体23と；容器本体23の外周溝24に可回動に取付けられる止め輪部25と、注ぎ用突出孔20の先端部20a及び係止用突起部21の何れにも係止可能な小キャップ部26と、止め輪部25と小キャップ部26とを連結している可撓アーム27と、を夫々有する吐出防止小キャップ具28と；を備えたものがあった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、従来の調味料用容器は、大キャップ22の上面に係止用突起部21が設けられていたため、小キャップ部26に係止させようとするとき、止め輪部25を回動させなければならない場合があ

った。また、吐出防止小キャップ具28を取外すことができず、非衛生的であった。さらに、業務等で長時間使用する場合、吐出防止小キャップ具28が邪魔であった。また、組立作業が面倒であった。

【0004】そこで、本発明は、回動させなくても簡単に調味料等の吐出を防止できる吐出防止具を有する調味料用容器を提供することを目的とする。また、吐出防止具を取外すことが可能な調味料用容器を提供することを他の目的とする。さらに、業務等で長時間使用する場合に、吐出防止具が邪魔にならない調味料用容器を提供することを他の目的とする。また、組立作業が容易な調味料用容器を提供することを別の目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上述の目的を達成するために、本発明に係る調味料用容器は、上方開口部を有する容器本体と、吐出小管部が上面から突設されると共に上記容器本体の上方開口部に施蓋される蓋体と、該蓋体に着脱自在に取付けられる吐出防止具と、を備え；該吐出防止具は、上記蓋体の上記吐出小管部の根元に着脱自在に外嵌される環状取付部と、上記吐出小管部の先端部に着脱可能に外嵌される小キャップ部と、上記環状取付部と該小キャップ部とを連繋する可撓部と、該可撓部の中間部上面に突設されて上記小キャップ部が外嵌可能な凸部と、を有するものである。

【0006】また、吐出小管部がその基端から吐出防止具の環状取付部の厚さと略等しい高さにリング状の抜け防止凸条部を有するものである。また、吐出防止具の凸部が平面視に於て蓋体の上面外縁より内側に位置するものである。

【0007】また、蓋体の上面が凹面状を形成しているものである。また、吐出小管部が先端部に向かって縮径状であって、吐出小管部の根元に環状取付部を外嵌したときに可撓部が蓋体の上面に接するように、吐出防止具が構成されたものである。

【0008】また、上方開口状の容器本体と、上面に吐出パイプが一体状に設けられて上記容器本体の上部に着脱自在に施蓋される蓋体と、から成り、該蓋体の上面が凹面状に形成されているものである。

【0009】

【発明の実施の形態】図1及び図2は、本発明の第1の実施の形態を示し、この調味料用容器は、上方開口部1aを有し、醤油、ドレッシング等の調味料Dを収納する容器本体1と、（容器全体を傾けて容器本体1を押圧することにより）調味料Dを吐出する吐出小管部2が上面3aから突設されると共に上記容器本体1の上方開口部1aに螺合により施蓋される蓋体3と、該蓋体3に着脱自在に取付けられて不使用時に調味料Dの吐出を防止する吐出防止具4と、から成る。

【0010】吐出防止具4は、具体的には、上記蓋体3の上記吐出小管部2の根元に着脱自在に外嵌される環状

取付部5と、上記吐出小管部2の先端部2aに着脱可能に外嵌される小キャップ部6と、上記環状取付部5と該小キャップ部6とを連繋する可撓部7と、該可撓部7の中間部上面に突設されて上記小キャップ部6が外嵌可能な凸部8と、を有する。凸部8は、平面視に於て蓋体3の上面3a外縁(円周)より内側に位置する。

【0011】吐出防止具4の小キャップ部6について説明する。図1は、小キャップ部6が吐出小管部2の先端部2a(図3参照)に外嵌されている状態を示し、図3に、小キャップ部6が吐出防止具4の凸部8(図1参照)に外嵌されている状態を示す。すなわち、小キャップ部6には、吐出小管部2の先端部2a及び吐出防止具4の凸部8の外形に略対応した形状の孔部6aが付設され、さらに孔部6aの内部には、先端部2a及び凸部8に嵌まれる内部突出子6bが付設されている。そして、食材又は料理を調味するため、調味料用容器を使用する場合に於ては、小キャップ部6を(図3の如く)凸部8(図1参照)に外嵌状態にて使用し、調味に使用しない場合に於ては、小キャップ部6を(図1の如く)吐出小管部2の先端部2a(図3参照)に外嵌状態にて調味料Dを保持する。

【0012】図4は、図1の断面図、すなわち、小キャップ部6が吐出小管部2の先端部2aに外嵌されている状態の断面図を示す。吐出小管部2は先端に向かって縮径状であって、吐出小管部2の根元に環状取付部5を外嵌したときに可撓部7が蓋体3の上面3aに接するように、吐出防止具4が構成されている。この構成により、環状取付部5が吐出小管部2に嵌め易くなり、かつ、吐出小管部2の先端部2aから小キャップ部6を外して凸部8に外嵌する時に、吐出防止具4の(容器本体1及び蓋体3に対する)安定性が良いので、外嵌するのが容易である。

【0013】そして、吐出小管部2は、その根元より少し上、すなわち、吐出小管部2の基端から吐出防止具4の環状取付部5の厚さTと略等しい高さ位置に、環状取付部5が吐出小管部2から抜けるのを防止するリング状の抜け防止凸条部9を有する。

【0014】蓋体3の上面3aは、凹面状に形成されている。これにより、調味料Dを吐出した後にテーブルに置いた時に調味料Dが吐出小管部2の外面を伝って落ちても、上面3aに調味料Dが溜まり、容器本体1の外面にまで垂れるのを防ぐので、テーブルが汚れることも、次回使用するとき手が汚れることもない。

【0015】図5及び図6は、本発明の第2の実施の形態を示し、この調味料用容器は、調味料Dを収納する上方開口状のプラスチック製容器本体10と、上面12aに金属製吐出パイプ11が一体状に設けられて上記容器本体10の上部に着脱自在に螺合されるプラスチック製蓋体12と、から成る。

【0016】吐出パイプ11は、弯曲部11aをその中間位

置に有する。調味料Dを吐出する際調味料用容器を傾けるが、勢い良く傾けても、調味料Dが吐出する勢いを弯曲部11aが緩和する。蓋体12の上面12aは凹面状に形成されているので、調味料Dが洩れて容器本体10の外面に付着することがない。

【0017】

【発明の効果】本発明は、上述の如く構成されるので、次に記載する効果を奏する。

【0018】(請求項1によれば)必要に応じて(例えば、業務用途等で頻繁に使用し、その都度キャップをする必要のない時)吐出防止具4を取外して使用することができ、至便である。また、吐出防止具4を取外すことができ、使用に際して調味料D等により汚れた場合にきれいに洗うことができ、大変衛生的である。さらに、小キャップ部6は、吐出防止具4の一部であって、環状取付部5にて吐出小管部2に外嵌されるので、紛失される虞れがない。

【0019】(請求項2によれば)吐出防止具4を紛失する虞れがない。また、吐出防止具4の小キャップ部6を、吐出小管部2の先端部2aと吐出防止具4の凸部8との一方から他方へ外嵌し換える時に、容易にその変更を行うことができる。

(請求項3によれば)小キャップ部6を吐出小管部2の先端部2aに外嵌するときに、吐出防止具4の凸部8が平面視に於て蓋体3の上面3a外縁より外側に位置する場合と比較して、小キャップ部6を凸部8に外嵌するのが容易である。

【0020】(請求項4によれば)たとえ調味料Dが吐出小管部2の外側に洩れても、上面3aに溜まるので、容器本体1の外面にまで洩れることがなく、次回使用するとき、手を濡らす、卓上を汚す等の虞れがない。

【0021】(請求項5によれば)吐出防止具4の小キャップ部6を凸部8に外嵌する時に、吐出防止具4の安定性が良いので、外嵌するのが容易である。

(請求項6によれば)調味料Dが吐出パイプ11の外側に洩れても、上面12aに溜まるので、容器本体10の外面にまで洩れることがなく、次回使用するとき手を濡らす、卓上を汚す等の虞れがない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施の形態を示す正面図である。

【図2】断面分解図である。

【図3】正面図である。

【図4】正面断面図である。

【図5】第2の実施の形態を示す正面図である。

【図6】断面分解図である。

【図7】従来例を示す断面図である。

【符号の説明】

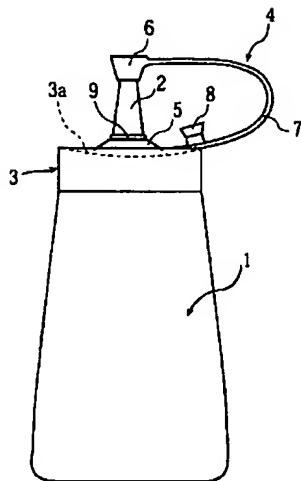
1 容器本体

1a 上方開口部

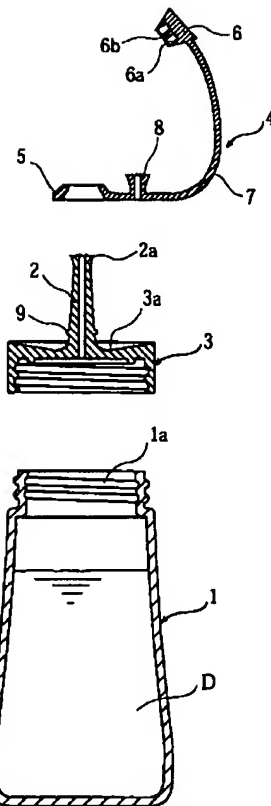
- 2 吐出小管部
- 2a 先端部
- 3 蓋体
- 3a 上面
- 4 吐出防止具
- 5 環状取付部
- 6 小キャップ部
- 7 可撓部

- 8 凸部
- 9 抜け防止凸条部
- 10 容器本体
- 11 吐出パイプ
- 12 蓋体
- 12a 上面
- T 厚さ

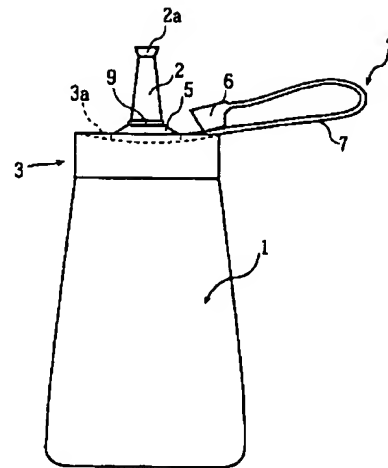
【図1】



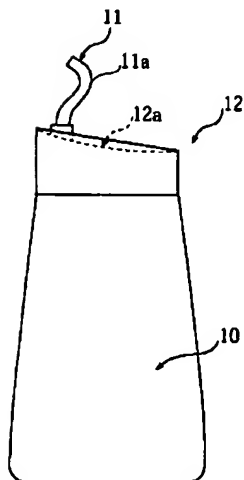
【図2】



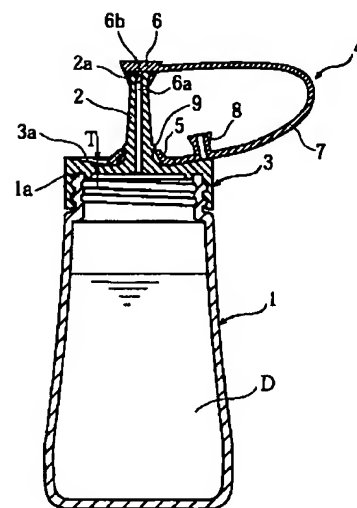
【図3】



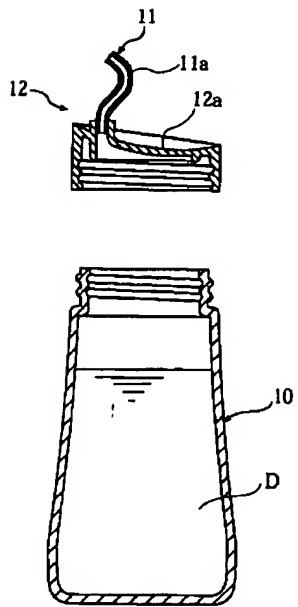
【図5】



【図4】



【図6】



【図7】

